

小栗上野介の首級について

①普門院のホームページでは http://fumonin-saitama.jp/fumonin/oguri_eiketsu.html

小栗上野介の首級は小姓銀之介が夜中に主人上野介の首を抱み持ち、翌日普門院の大猷和尚の元まで持ち帰った。と記載されている。

②東善寺ホームページでは <http://tozenzi.cside.com/okubi.htm>

小栗上野介の首級は法輪寺墓地から一年後掘り返して盗み東善寺に埋葬したと記載されている。

③さいたま市の講座では下記の通り話されている。(講座の資料転記)

普門院42世阿部道山氏は、その著(昭和16年)『海軍の先駆者 小栗上野介正傳』に

「忠順の使いとしてしばしば普門院に訪れていた用人武笠祐左衛門の妻の実家は(旧大宮市)馬宮村の永田家である。忠順が江戸を出立する時、祐左衛門は病気のため永田家に滞在しており、代わりに息子の銀之助を忠順の養子又一の側付として遣わした。

忠順処刑後、養子又一に従っていた銀之助は又一とともに高崎藩に預けられたが逃亡し、鳥川畔に梟された上野介の首を持って関東に下り、菩提所の普門院に到り、大猷和尚に面し始祖忠政公墓側に秘葬して、身を母方実家たる永田家に隠したのである」と書かれている。

(ちなみに永田家屋敷は家康時代に関東の土木を一手に引き受け利根川東遷荒川西遷に着手した伊奈忠次の陣屋でその後永田氏が拝領したもの。立派な長屋門がありさいたま市指定有形文化財となっている。

<http://www.city.saitama.jp/004/005/006/001/017/010/003/p000229.html>)

銀之介は明治10年旧浦和市三室村の名主家で同姓の武笠武貞の婿養子になり、やがて村長となって村治に尽力、大正10年69歳で逝去した。

銀之介の曾孫武笠昇氏は「上野介首級派あるいは遺髪を銀之助が大宮の普門院に携えたという話もあるが実証できない」と『曾祖父武笠銀之介の一生』で書いている。

小栗上野介と普門院

小栗家は4代忠政から江戸で活躍しており槍で家康を守ったとして「信国の槍」を拝領した。忠順は忠政を小栗家の始祖として尊敬しており群馬権田村へ行くときも普門院に立ち寄って家宝の具足や槍や忠政の画像を普門院に預けた。忠政と夫人の永代供養代50両を収めた。

普門院 42 世阿部道山氏が小栗上野介復権に傾けた情熱と努力には並々ならぬものがあつた。昭和9年それが認められた。昭和9年8月には普門院に徳川家達題字「小栗上野介招魂碑」が建てられ除幕式が行われた。その後、錨と浮標水雷、大砲が海軍省から下府され、現在も普門院境内に

置かれている。

東善寺ホームページでは

「同 9 年に阿部道山の勧めで小栗貞夫氏が普門院に「小栗上野介の墓石（自然石）」を造った。」(以前からあったものではない)そして阿部道山氏の「海軍の先駆者 小栗上野介正傳」に書かれている数か所を否定している。

さいたま市での講座では高崎市の東善寺についても雑司ヶ谷霊園についても語られず「上野介の首級がどこにあるかは論じない。大事なことは上野介が普門院を大切にしていたということである。」と締めくくっている。